

XOR を取り、一方で一定カウントになったら CPU に割り込みがかかるようにするといったことが、外部のロジックやオペアンプ回路などを一切使わずに実現できてしまいます。まさに「システム・オン・チップ」と呼べるでしょう。

これらの設定は CPLD のようなフラッシュメモリベースではなく、内蔵 CPU からのレジスタ設定で行われますので、動作中にダイナミックにモードを切り替えること(ダイナミックリコンフィグレーション)も可能です。パッケージは実験に使いやすい DIP パッケージもありますし、価格も一般的な通販サイトで 1 個 500 円程度ですのでちょっとした実験をするのにも何かと便利ではな

いかと思います。

詳細はサイプレス社 (<http://www.cypress.com>) や筆者のサイト (<http://www.pastelmagic.com>) をご覧ください。

<編集より> PSoC についてご興味をもたれた方は、まず上記の桑野さんのサイトをご覧になることをお勧めします。こちらでは、開発に関する情報公開とともに、PSoC デバイスやオリジナルの PSoC の開発キットの販売を行ってらっしゃいます。また、リードでも紹介したように、トラ技の 04 年 4 月号から 9 月号まで PSoC に関する連載をお持ちでしたので、そちらも合わせてご覧下さい。

ラク楽実践 VR 第 2 回 コラム

お役立ち SHOP 情報 (名古屋・大須)

地方にもそれなりの独立系部品屋があるようである。大垣には小川無線、岐阜にはエイデン(パーツ屋は閉めてしまったが)という小規模な部品屋があり、少年をかどわかすべくがんばっているのである。名古屋郊外、静岡、浜松近辺にもそれなりの部品屋があると聞く。最近では東京以外の地方にも、マルツ電波が相当数できているそうである。

さて、日本の 3 大電子部品地帯といえば、秋葉原、日本橋、そして大須である。大須は、電気街というよりも、古くからの商店街であり、お地蔵さん、鯉節専門店、大昔の原宿風の安いブティック、団子&焼きそば屋、などが楽しい。地元の人に聞くと、大須には昔、千石や国際ラジオ、トヨムラがあったようである。しかし秋葉原のそれらと同一かどうかはわからない。部品やジャンクは、第一アメ横ビル、第二アメ横ビルという二つのビルにほぼ集約されている。アメ横ビルはどちらも、アキハバラデパート(部品は売ってない、念のため)に、秋葉原の主だった店を集約したような感じのところである。秋葉というより御徒町っぽいかもしれない。部品屋と安いリサイクル衣料、眼鏡屋、アニメ/アイドル、模型、楽器、ゴルフ、チケット、そして病院などが混在している。秋葉原をカオスという人もいるが、節操のなさでは大須、アメ横はそれ以上である。

まずは第二アメ横ビル。ここはそれなりに楽しい場所であるが、いつ行っても人影がまばらなのが悲しい。代表格は 1F のタケイ無線であり、半導体、コネクタ等が総合的に手に入る。秋月のキットも一部扱っているし、PIC や H8 ものも結構あってあなどれない。海外電商、海外通商はお互いに関係があるかどうかは謎であるが、前者はケーブルが充実、後者はコネクタなどの実装部品を扱っている。ねじ類は西部通商で買う。電化パーツは大須にいくつか店舗があり、アマチュア無線の店も出している。第 2 アメ横では防犯カメラや犬用発信器などに隠れてエレキットなどのキットが充実、部品もそれなりに有る。第一アメ横の店はアマチュア無線から抜けきれていない感じだが、ビデオ編集機(コピーガードなんとか)、防犯用具などに守備範囲を広げている。第一アメ横ビルには、アイテックという中国製電子部品専門店が最近開店した。割とちゃんとしているが、びっくりするほど安いわけではないようだ。秋葉にもあるマルカ電機も入っている。2F に上がるとジャンク屋のボントンがある。ここは秋葉原でいえば、ラジオガーデンや、ニュー秋葉原センターのような二の線、三の線のジャンク屋である。黒電話機や、いつのものかわからないオイルコンデンサなんかであふれている。いつもお客がいるのは立派だと思うが、なにか売れているところを見たことがないのも謎である(最近きれいになって人も増えたとの情報有り)。他に、1F の小坂井電子はクラシックな真空管ものオーディオの店、KDS は中古 AV 機器屋、というより AV ものジャンク屋である。

名古屋は人工的すぎる部分と、ディープすぎて地元の方でないときつい部分が目立つが、大須はちょうど良く穏やかな混沌である。所用で名古屋に来た際にはぜひ一度は試していただきたいものである。 木島竜吾(岐阜大学)